



有明高専だより

第100号
2000.3

100号記念特集号



平成4年
優秀賞
第75号

平成4年
奨励賞
第77号

平成5年
優秀賞(写真部門)
第79号

平成8年
優秀賞
レイアウト部門
第88号

平成7年
優秀賞(レイアウト部門)
第84号

平成9年
優秀賞(写真部門)
第90号

平成10年
優秀賞(レイアウト部門)
第94号

目次

特集 有明高専だより100号

- 1) 校長挨拶……………2
- 2) 有明高専同窓会・後援会会長祝辞……………3
- 3) 3主事対談「高専だより」を振り返る……………4
- 4) 年表で見る有明高専と科学の発展……………6
- 5) 100号までのあんなことこんなこと……………8
- 6) 100号までの有明高専 今・昔……………10
- シリーズ「研究室訪問」……………12
- シリーズ「人物・いま」・訪問演奏……………13
- 学生相談室・セクハラ相談室開設……………14
- ロボコン・プロコン……………15
- シリーズ「クラブ紹介」……………16
- ラグビー大会・定期演奏会・球技大会等……………17
- 学寮だより……………18
- 学生会活動……………19
- 建築設計競技・編集後記……………20

文部省優秀広報紙受賞
「有明高専だより」紹介

挨拶



障子を開けてみよ 外は広いぞ

校長
山藤 馨

開校6年後の昭和44年8月に発行された「有明高専だより」創刊号は、B5版、縦書き6段組み、12頁の体裁であった。表紙を兼ねた最初の頁には、誉田敏雄第2代校長の自筆の題字と共に、アポロ11号が月面に着陸した同年7月22日執筆の創刊の辞が掲載されている。第五高等学校の教員総代であった夏目金之助（漱石、明治30年開校時30歳）の同校創業の祝辞を引用しながら、「師弟の和熟を」と説かれていて、当時の本校の校風を偲ばせる。縦書きであることや紙質の悪さも当時の世相を反映していて興味深い。

その後紙質は徐々に向上するが、コート紙が登場するのは昭和60年6月の58号からである。縦書きに至っては、なんと平成3年3月の75号まで続いている。改革・改善の実行の難しさを示す好例であろう。

しかし、広報紙の生命である魅力的な内容の豊富さ、企画の斬新さ、親しみ易さ等の向上に紙質の改善やカラー頁の導入等の改革の努力が果たした役割は見逃せない。カラー頁を含む横書きに変更して2号目の平成4年3月の77号が、前年の7月に行われた学校教育法及び設置基準の抜本的改正（専攻科設置、教育課程の大綱化、等）を特集して、本校としては初めて国立大学等優秀広報紙（奨励賞）に選ばれたのも頷ける。

以来、我が「有明高専だより」は、平成10年度に至るまで7年連続して優秀広報紙に選ばれ、平成6年の81号は最優秀賞を獲得している。この快挙も80号からのA4版導入なくしてはあり得なかつたであろう。

これまで発刊された99号を改めて通読してみると、その時々^{うかが}の出来事や学校行事と共に、学生や教職員、卒業生達の生き活きとした意見が掲載されていて、校風の変遷状況が具体的に窺える。「創造性、多様性（自己啓発・向上能力）、国際性、学際性」の習得を柱とする、現在の有明高専の教育理念が、歴代の校長や教職員の21世紀に向けての先見的な意見を集大成したものであることもよく理解できる。

女性の記事も創刊号から掲載（2期生の中山み君の卒業生近況談話）され、スナップ写真も10号から現れている。談話が写真入りになるのはコート紙導入後で、建築学科の江上美智子君（64号）や、本校初の女性教官となられた牧田（岩本）晃代先生（67号）の談話以降である。学生数、教官数共に全国でも最多を誇る本校女性の紙面上での姿も、カラー頁導入後に漸く現実の活動振りが伝えられるようになってきた。

創刊以来各号の発刊に当たられた方々の企画、取材及び編集のご努力に、心からの感謝と敬意を捧げたい。

「障子を開けてみよ。外は広いぞ。」これは、我が国の織機工業に画期的な技術革新をもたらし、長男には自動車製造という新分野を歩ませた豊田佐吉が息子達に残した言葉である。100号の発刊を機にさらに新しい一歩を踏み出す「有明高専だより」に、標題のこの言葉を贈り、今後の飛躍的な発展を望みたい。

歴代校長題字紹介



祝辞



創刊100号に 寄せて

有明工業高等専門学校
同窓会
会長 重村 栄

「有明高専だより」が創刊以来100号を迎えられたことを、心からお喜び申し上げますとともに、30年余の永きに亘って途絶える事なく発行されました関係者に敬意を表する次第です。

今、我が国は第三の開国を迎えていると言われております。第一の開国はペリー提督率いる4艘の黒船が浦賀沖に現れて天下太平の眠りから覚まされた時。第二の開国はマッカーサー司令官が横田基地に降り立ち、日本国憲法の制定、財閥解体、農地開放等など、それまでの体制を大きく変化させた時。そして第三の開国は金融ビッグバンに象徴されるように、従来の社会のパラダイムが根底から崩壊し、既存の価値観すら全く通用しなくなりつつある現在です。

「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと、過去の反省をも含めて人々の求めるものが変わってくると同時に、社会構造にも大きな変化が起きております。来たる21世紀は国際化、情報化、環境問題がキーワードと言われておりますが、科学技術の一層の進歩が大きな鍵を握っていると言えるのではないのでしょうか。高度経済成長期に誕生した高専もこのような社会情勢の中で、これまでに果たして来た役割以上の物を求められるでしょうし、そうすることに依って存在感を高めることができるでしょう。

創刊号に掲載されている誉田校長の挨拶文には、発刊する第一の目的は教官と学生のコミュニケーション、第二の目的は学校と父兄とのコミュニケーション、第三の目的は学校と卒業生とのコミュニケーションであり、各々のコミュニケーションが深まること学校の発展に結び付くものと記されていますが、時代は変わろうともその真理は何ら変わることはないものと信じて止みません。

「有明高専だより」が更に充実し、初期の目的を十分に果たされますと共に、有明高専が21世紀にあっても輝かしい存在でありますよう衷心より祈念致します。



素晴らしい 学校へ

有明工業高等専門学校
後援会
会長 森 徳義

「有明高専だより」が創刊100号を迎えたことを、心からお喜び申し上げます。

創刊号の発行の日付は昭和44年8月15日となっております。偶然にも、私が貴校の建築学科の第2期生として入学した年です。「右も左も」どころか「上も下も」さえわからない、中学4年生とでもいった雰囲気の鼻たれ小僧だったと思います。

それがいまでは、白髪が気になる、どこから見ても立派な(?)中年オヤジとなりました。30年という時間は自分自身のからだの変化(老化?)や、子供の成長と重ねて考えれば、とても長い期間であることに気付くものです。この厳しい時代に発刊が30年間も継続でき、かつ内容的にも発展しつつというのは、編集に携わった関係各位の努力の賜物と言えるでしょう。感服いたします。

ただ、最近の10年間を振り返ると、世の中はバブル崩壊からリストラ、IT革命、地球規模の環境問題等の既成の「仕組み」が問い直された戦後最大の激動期であったといえるでしょう。本当の意味での「リストラ」の時代ともいえます。もちろん、もう少しの間、この混乱が続くのですが、それは来たるべき21世紀に対応可能な体制しゅうれんに収斂していくための準備体操みたいなものであると思います。有明高専においても、いろいろと、この時代の変化に対応できるような教育、研究システム等の見直し学内外の提言等により活発に議論、検討中であると聞いておりますが、なるべく早期の実践を期待しています。準備体操なしで本番を迎えることは大変な苦痛を伴うと思います。

有明高専は一OBの立場からも一父兄からみても、「素晴らしい学校」であり続けるものと信じています。これからもっと加速するであろう国際化、情報化、環境問題等に対する世の中からの厳しい要求に応える能力を養成しながら、かつ豊かな人間性の育成にも視点を置いての「有明高専」の今後一層の充実、発展を期待しています。

『高専だより』を振り返る

出席者 田口 紘一（教務主事）
宮川 英明（学生主事）
川崎 義則（寮務主事）
瀬戸 洋（司会）

司会 本号で「高専だより」は第100号になります。100号発刊にあたり、3主事に「高専だより」のことをいろいろな面から大いに語ってもらおうと思います。まず最初に「高専だより」の編集責任者である田口先生から口火を切って頂けませんか。

田口 それでは「高専だより」の歩みを簡単に振り返ってみたいと思います。「高専だより」が創刊されたのは昭和44年の8月で、7回生が入学した年です。それから100号までの32年の間には「高専だより」もかなり変わってきました。大きさがB5版から現在の



田口

A4版になり、発行回数も年4回から、3回、2回、そして現在は年3回です。特に大きく変わったのは、平成3年の76号からではないでしょうか。それまではどちらかと言えば、記事・文章中心で、とっつきにくかったのですが、76号からはできるだけ学生が読みやすいように工夫をするようになりました。写真の一部がカラーになったのも76号からです。77号からは「研究室訪問」「人物・いま」「中学校訪問」などのシリーズが始まり、これは今も続いています。

司会 もともと「高専だより」に掲載されていた「同窓会通信」や「図書館だより」が独立したのはいつになりますか。

田口 同窓会誌「萩尾坂」が創刊されたのは平成2年で、「図書館報」が創刊されたのは平成7年です。そして公的記録誌「有明高専校報」が昭和58年に創刊されています。その3紙が発刊されるまでは「高専だより」が本校唯一の広報紙であったわけですから、「高専だより」は、本校の歴史をしるした貴重な記録ということになります。例えば、「総合実習センター」の足跡も「高専だより」を見るのが一番良くわかる気がします。「総合実習レポート」として26回にわたり掲載されています。

宮川 私は「20年誌」の編集にたずさわったとき、「高専だより」にずいぶんお世話になりました。なにしろ過去を知る資料として「高専だより」以外、記録らしい記録がありませんでしたから。そのとき、学校の出来事は何らかの形できちんと残しておく必要性を痛感しました。

司会 100号にはカウントされていませんが、特別号も出ているようですね。

田口 昭和52年に卒業生の動向を伝えた特別号を出しています。たしかこの頃は不況のため、就職が思わしくなく、それに対する対策の一つとして特別号を出したように記憶しています。ほかは、菅田校長が現職でお亡くなりになったとき。それから、中学へのPR紙も最初は「高専だより」の特集号として出しています。

川崎 本校の卒業生である私は、「高専だより」に非常に元気づけられたのが印象に残っています。卒業して1、2年して「高専だより」が送ってきましたが、先輩もいず、ひとり職場で不安を抱えている頃でしたから、学校のその後、後輩たちのこと、同級生の動向などがわかって本当に勇気づけられました。心待ちして読んだものです。一番うれしかったのは、図書館が出来たというニュースでしたね。私はわざわざ完成した図書館を見に来ました。と言うのが、学生るとき、棚町先生と一緒に高専の図書館はどうあるべきか、いろいろ検討して、実際、自分で鳥口を使って図面を引いたりしたものですから。実は、私が書いた図面が12号に出ています。

司会 ところで、最近の「高専だより」は本当に読みやすくなりました。学生も以前よりずっと読んでいないでしょうか。

川崎 卒業生の立場から言わせてもらえば、「萩尾坂」が創刊されたのが平成2年です。「高専だより」が大幅に刷新されたのもやはり平成3年からです。「萩尾坂」の発刊が刺激になって、「高専だより」もまた活性化し充実して行ったのではと考えたりします。



川崎

宮川 「高専だより」が現在のように文部省の広報紙コンクールで連続して入賞するほど良くなった理由の一つは、当時のスタッフの一人であった松本学生係長の存在もありますね。

司会 それは確かです。あの方はそれは熱心でしたから。
田口 他高専についても、参考になるような立派な広報紙を出しているところは、必ず核になるような方がいらっしやいますね。ある高専では、ぜひ自分に編集をまかせてくれと率先して引き受けておられる人もあるようです。本校にもそういう方がおられると助かるんですが。

司会 作成にはずいぶんご苦労があるでしょう。

田口 一つは写真に苦労します。見る人は何げなく見ていると思いますが、いい写真はなかなか撮れませんね。

宮川 写真部に依頼するのも手かもしれませんね。

川崎 「高専だより」の中に設けてある「学寮だより」

のコーナーは写真も含めてすべて学生が取り仕切っています。

田口 もう一つ苦労するのは、企画ですね。内容を検討するさい、前年度のを参考にしてしまいます。そうするとどうしてもマンネリになってしまうようです。

宮川 マンネリと言われようと、毎回はずせない定番はあるでしょうから、それは仕方ないのではないのでしょうか。

川崎 私は1号から99号まで全て、一字一句全部読んできましたが、楽しく作ってもらいたいですね。作る側も楽しんで作り、読む側も楽しんで読む。これが理想だと思います。なかなか難しいとは思いますが。

田口 作る側から言えば、川崎先生のように全部読んでいる人がいるかと思うと本当にうれしいですね。作るのが楽しいとは言えませんが、一人でも多くの人に読んでもらいたいと思いながら作っているのは事実です。

川崎 あまり肩肘をはらない「コーヒーブレイク」のような記事があると、ホッとします。そういう記事がオアシスとなって全体を生かすのではないのでしょうか。

田口 編集委員会の直前になってばたばたと、前年度のを見ながら企画を考えてもいいアイデアはなかなか浮かんできませんね。

川崎 アンテナを常にはりめぐらしておく必要があるでしょうね。他高専のを見ると、保護者の記事もありますが、ああいうのもいいかなと思います。学校からの一方的情報伝達ばかりでなく、相互交流も必要ではないでしょうか。

司会 「卒業を前にして」という対談はいつも学生の対談ですが、保護者による対談もいいかもしれませんね。



瀬戸

川崎 5年間子供を有明高専にあずけた保護者の立場から、良い面も悪い面も語ってもらうのは、学校評価につながると思いますよ。

司会 最近ほとんど見かけませんが、以前はよく随筆が掲載されていましたね。たまにはあのような記事もアクセントになっていいかもしれませんね。

宮川 中村先生や木下技官がよく執筆しておられますね。お二人は連載もあったように記憶します。

川崎 以前掲載されていた先生の個人的情報も懐かしいですね。例えば、宮川先生が結婚されたとか、子供さんが生まれたとか。高専は小さな所帯なので、ああいう記事はとても at home な雰囲気があって良かったですね。先生の趣味や若い頃のエピソードなども親近感をもって読まれるのではないのでしょうか。ある先生は投げ網が趣味であるとか、ダンスが趣味だと知るの、先生を別の面から知るということで、とてもいいように思います。現在の研究室訪問のソフト版みたいなものですが。

宮川 学校や授業では見せないところを記事にするのは面白いかもしれませんね。それも学生に取材してもらって。

川崎 「萩尾坂」は今度、モニターを選んで、「萩尾坂」についての意見を聞くことにしています。保護者も含めて一度「高専だより」についてもアンケートを取るとまた新しい展望が開けてくるかもしれませんよ。それから、「萩尾坂」の場合、発行したあと、必ず反省会を開くようにしています。

田口 かなりマンネリ化しているのは確かですから、いろいろな人の意見を広く聞く必要があるでしょうね。

宮川 100号発刊を機会に配布の方法も考え直したらどうでしょう。例えば、6月発行のものは、保護者懇談会のとき、保護者に直接渡す方法もあるかなと思います。

司会 どんな所に配布しているのですか。

田口 学生以外では、企業、学校関係、地元の中学校などです。発行部数は1700部です。

司会 中学校は大牟田、荒尾の中学校だけでなく、もっと広く、例えば、在学生の出身中学校には配布するようにはしたらどうでしょう。

宮川 毎回送るのが大変なら、3部ひとまとめにして、年1回送ってもいいのでは。

川崎 中学校回りをするときの資料に加えていいかもしれません。



宮川

司会 それでは最後に一言づつお願いします。

田口 これからの「高専だより」のありかたとして、記事をインターネットに掲載して、アクセスすれば誰でも読めるというふうにするのもいいのかなと思ったりします。

宮川 保護者が学校に見られるのは年に1回です。学校の状況を保護者に知ってもらう機会がきわめて少ないわけです。そういうことを考えると、「高専だより」の役割は非常に大きいと思います。今、学校は大きく変わろうとしています。学校が何を考え、どう変わろうとしているのか、それを学生や保護者にきちんと知ってもらうことはきわめて大切なことです。「高専だより」の必要性、重要性がますます増してくると思います。これからも、内容をあまり盛りだくさんにせず、学生の目先で、読みやすく、見やすく「高専だより」を心がけながら、学校の現状を的確に伝えていくべきだと思います。

川崎 予算の関係もあって「萩尾坂」は「高専だより」ほど派手にはできませんが、これからも、いい意味でのライバルとしてお互い発展して行くことを願っています。

司会 本日はお忙しいところありがとうございました。

特集 年表で見る有明高専と科学の発展

有明高専の設立から1999年までの歩みを科学の歴史とならべてみると

学校の発展

昭和	有明工業高等専門学校開設 (機械工学科、電気工学科、工業化学科)
38年(1963)	第1回寮祭
39年(1964)	若葉棟の竣工 管理棟、一般科目棟の竣工 第1回体育祭開催(運動場完成記念)
40年(1965)	第2期校舎等新営工事 (工業化学科、機械工学科の一部、電気工学科の一部、青葉棟など) 正門完成
	
41年(1966)	有明工業高等専門学校紀要創刊 第3期校舎等新営工事 (機械工学科・電気工学科の残部、体育館、球技コート、紅葉棟など) 全棟に校内電話開通 第1回高専祭 第1回修学旅行 校歌決定
42年(1967)	3学期制から2学期制へ
43年(1968)	第1回卒業式(卒業者数99名) 建築学科が増設
44年(1969)	建築学科増設に伴う新営工事 (一般科目教官棟、建築学科棟、銀杏棟など) 有明高専だより創刊
	
	(創刊号の表紙)

科学の発展

昭和	クエーサー(恒星状電波源)の発見 初の女性宇宙飛行士
38年(1963)	
39年(1964)	マイクロ波背景放射の発見 CRT対称性の発見 トランスファーRNAの構造の同定 複数人(3人)による宇宙飛行 マリナー4号による火星のクレーター の写真撮影 宇宙遊泳 宇宙ランデブー 商業用通信衛星 金星探査機 ホログラム(3次元写真)製作 タンパク質の合成 朝永振一郎、ノーベル物理学賞 パルサー(脈動する星)の発見 心臓移植 脊椎動物のクローン
42年(1967)	
43年(1968)	電弱相互作用理論 太陽ニュートリノの発見 月周回飛行
44年(1969)	人、月面に立つ
	
45年(1970)	南極で隕石発見 タンパク質の構造解析 人工心臓 ブラックホールの蒸発理論 隕石からアミノ酸 遺伝子合成 組み替えDNA技術 逆転写酵素の発見 光ファイバー 走査型電子顕微鏡 惑星への軟着陸 超音速旅客機
46年(1971)	ブラックホールの検出 ポケット計算機

学校の発展

47年(1972)	新図書館開館 視聴覚教室使用開始
	
49年(1974)	電子計算機室開室
55年(1980)	選択棟竣工
56年(1981)	第2体育館竣工 4・5年生の服装自由化 一般科目棟の床・壁の整備 学生ロッカーの整備
58年(1983)	修己館の竣工
	
平成 元年(1989)	電子情報工学科学生募集開始 (5学科定員1000名となる)
2年(1990)	同窓会会報「萩尾坂」創刊 電子情報工学科棟起工式
3年(1991)	高専卒業者を準学士と称する(法改正)
4年(1992)	学校5日制実施(土曜日が休日となる)
5年(1993)	創立30周年記念行事 桜棟竣工
6年(1994)	工業化学科を物質工学科に改組 「友夢創家(トムソーヤ)」 (30周年記念施設)完成、及び、 命名披露野外演奏会開催
7年(1995)	第1回ロボットJリーグ開催 (ロボットJリーグ有明ステージ'95)
8年(1996)	物質工学科「生物棟」竣工 ホームページ公開 手作りペットボトルロケット大会開催
9年(1997)	図書館ギャラリー、オープン
10年(1998)	ジュニアサイエンスフェア開催
11年(1999)	教育環境改善のための増改築工事開始 学生相談室開設

科学の発展

47年(1972)	ビタミンB12の合成 光速の精密測定 地球資源衛星(ランドサット1号) CATスキャン(断層映像撮影) レーザーディスク
48年(1973)	遺伝子工学はじまり 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞
49年(1974)	フロンによるオゾン層破壊の可能性指摘
51年(1976)	バイキング1号2号火星軟着陸
52年(1977)	インフレーション理論 光ファイバーによる大西洋横断ケーブル
56年(1981)	スペースシャトル初飛行 福井謙一、ノーベル化学賞
57年(1982)	レーザープリンタ
58年(1983)	太陽系外惑星の発見
60年(1985)	フラレンC60の発見
61年(1986)	ハレー彗星戻ってくる
62年(1987)	高温超伝導体の発見 利根川進、ノーベル医学生理学賞
平成 2年(1990)	遺伝子治療 ハッブル宇宙望遠鏡
3年(1991)	ハイビジョン試験放送
4年(1992)	我が国初の宇宙科学実験 新幹線「のぞみ」
5年(1993)	福岡ドーム竣工
6年(1994)	純国産ロケットH2の打ち上げ成功 トックオークの確認 関西国際空港開空
7年(1995)	フェルマーの最終定理の証明 インターネットの普及本格化
8年(1996)	人類起源の遺伝子による解明 携帯電話、PHSの急成長 自立歩行人間型ロボット
	
9年(1997)	無人火星探査機、火星表面を走行探査 クローン羊ドリー誕生 遺伝子組み替え食品食卓に
10年(1998)	ニュートリノに質量確認
11年(1999)	すばる望遠鏡運用開始 ヒト22番染色体解読

特集 100号までのあんなことこんなこと

「師弟の和熟を」

教官と学生のコミュニケーションの緊密なことが必要である。この「学園だより」を発刊する第一の意義はここにある。父兄とのコミュニケーション、父兄に学校の実情を承知して貰うことも重要な意義がある。本紙発刊の第二の目的はこの故に他ならない。更に第三の目的は、卒業生とのコミュニケーションにある。卒業生諸君のそれぞれの職場における現況は、教職員はもとより、在校生諸君にとっても大きな関心事に違いない。[創刊号(昭和44年8月)]

「就職選考は早すぎる」

始業式の日までに347社から千余名の求人があり、関係者はその事務処理に忙殺された。就職希望者84名に対して、4月末現在では523社、約1500名。その後も続々ときている。めばしい会社はほとんど含まれており、新聞の株式欄に赤丸を申込会社名のところにつけて全面赤くなるほどだ。今年某大銀行まで名乗りをあげてきた。[第8号(昭和46年5月)]

「総合実習計画とE³日本セミナー」

本校では46年の1月から「総合実習センター」という従来全くなかったものを企画し、本年度から現有の施設・設備・陣容をもって一部実施を始めました。その間、その総合実習センターと同じような構想の実験教育がアメリカのイリノイ工科大学において1972年から実施されていることがわかりました。それはトータ教授をプログラムディレクターとするE³プログラム(Education and Experience in Engineering)と呼ばれる新方式の実験教育であります。そのトータ教授が東京で行われる国際会議出席のため来日されるのを好機に、夫妻(夫人もスタッフの一員)をお招きして本校でE³日本セミナーを開催することになりました。(E³は「Eキューブ」と読む)[第21号(昭和49年8月)]

「剣道 連続優勝成る」

全国大会は8月25、26日の2日間、新潟市白山高校体育館で行われた。延々20時間の長路のものともせず我々は密かに連続優勝を期して新潟駅頭に降り立った。23日の夕刻である。1日おいて25日、団体戦が行われ、戦績は次の通りである。

予選リーグ	決勝トーナメント
有明 6-1 富山商船	有明 4-2 宇部
有明 5-1 鶴岡	有明 4-3 鹿児島

連続優勝である。的確な撃突、自然な体捌き、気合と、まったく基本に忠実な正剣を振るう我が剣道部も決して順調に優勝を勝ち取ったというわけではない。特に準決勝の宇部との試合では、先鋒、次鋒と宇部の闘志に圧せられ、一時は危ういと緊張したのである。しかし、この試合で始めて出場する3年生の五将本多は塚本監督の起用に依って活躍、我が勝利の起動力となったのである。[第30号(昭和51年11月)]

「女性が技術を求める時」 徳永 史(52年建築)

就職して3カ月。無我夢中のうちに過ぎてしまったようだ。学生時代、「建築」が嫌いで、幾度も脱高専を夢見たものだが、生来、楽道家なのか、不思議にも建築に浸りきった今の生活に大いに満足している。スタッフは5名という小さな設計事務所だが、だからこそ、家族同様の親しみで接することが出来る。

入所時、所長が言われた、「女性らしい建築家になりなさい」と。この課題は難行である。男らしい仕事が女性に一生できないように、女性にも女性にしかだせない魅力と秘力を込めた仕事があるはずだ。まだまだ、半人前のトレーサーのような仕事しか出来ない私だが、左手にドラフターだこが出来た頃までには、女性建築家の求めるべき技術を見つきたい。[特別号(昭和52年7月)]

「現場からの便り」 三ヶ次雄(46年機械)

私が学校にいた頃、こんなこと勉強しても役に立たない、と思っていたことでも、現在、直接的、間接的に、仕事に影響を及ぼしているようです。もっと勉強しておけばよかったと思うこともたくさんあります。

私がホンダに勤めて良かったかどうか、設計が私に適した仕事かどうかなどは、今はわかりません。ただ、私が設計した製品が販売され、それによって会社が利益を得、私の生計が成り立っているの、私は社会の一員として責任を果たしているのだという実感を持っています。[第33号(昭和52年8月)]

「就職試験体験記」 武田幸洋(53年電気)

試験官の観察している項目としましては
1、健康であること 2、明朗さ 3、表現力は 4、言葉使いは 5、意志は強いのか 6、協調性は 7、勉強はしてきたようか 8、頭は切れるかなどでしょう。私の場合は、3人ずつの面接で試験官は役員の方々6名と人事の方が2名という構成でした。[第37号(昭和53年8月)]

「有明高専のちょっといい話」

春になると学寮の庭は色とりどりの花が咲き乱れて、壮観である。どうやらこれは寮母さんの尽力によるようだが、それにしても寮生の丹精あつてのことである。はれがましいことにこの花園、荒尾地区の花いっぱい運動で毎年入賞している花壇である。通学生が寮に行く機会は余りあるまいが、春先には寮の庭をのぞいてみるとよい。それは見事なものである。[第44号(昭和55年11月)]

「全国懸賞作文コンクールで2 E安東君、見事一位に入賞」

「私が一番大切にしていること」という課題で、イトーヨーカ堂主催、旺文社協賛の第14回懸賞作文コンクールに安東聖一君が、応募作品12964篇の中から、第1位入賞の荣誉に輝いた。[第54号(昭和59年2月)]

「“祈りの楊梅” 除幕式 交通事故絶滅の悲願をこめて」

昭和55年12月24日に交通事故で亡くなられた山口・吉村・矢田三君のご遺族から頂戴した御芳志によって、バイク駐車場入口に3本一体の楊梅(やまもも)が植えられ、校長はこれに「祈りの楊梅」と命名し、これを刻んだ石碑を建立した。[第58号(昭和60年6月)]

「寮生漫歩 やったぞ 全員完歩」

わが岱明寮の名物行事の一つである寮生漫歩が、6月15日(土)夕方から翌日の未明にかけ、3年ぶりに行われた。コースは船小屋から寮までの28kmである。寮から船小屋はバスと汽車を乗り継ぎ、船小屋駅で点呼をとり、いよいよ漫歩の出発だ。中の島公園までの1.5kmは皆余裕もあり和気あいの雰囲気。第二休憩所の竹飯神社までは8.5kmと若干長いが皆元気。ここで待望の夜食。神社の境内や道路脇にすわり込んで食べたほかほかの肉めし弁当は大好評。神社を出てからは歩調がなぜか速まる。時速5kmを越えるスピードで黙々と歩く。第三、第四休憩所を過ぎるころは、疲れと眠気が襲ってくる。ただ脚だけが動き、話をする者もほとんどいない。歩け、歩け、歩けだ。[第59号(昭和60年12月)]

「ある御婦人からの手紙」

前略 初めてお便り致します。私は妊娠8カ月の主婦です。先日久留米より福岡行きの電車に乗ったときの出来事ですが、すでに乗車されていた学生さんたちが、私が乗車するやいなや、すみやかに席を譲って下さいました。(2席分)お陰で、私と横にいらした老紳士は気持ち良く席につかせていただきました。学生さんたちの話から有明高専ということがわかり、どうしてもペンを取らずにはいられなくなり、お便りして

おります。実は私は、主人の仕事の関係でシンガポールで生活しております。出産のため、久留米の実家に帰郷したばかりです。久しぶりの故郷でこういう清々しい経験ができ喜んでおります。シンガポールにいても、日本の青少年の事件等、色々入ってまいります。しかし、貴校の生徒さん方を見て安心致しました。将来、生徒の皆様が、日本や海外各地で活躍されることを希望して、まずは取り急ぎ御礼申し上げます。かしこ [第68号(昭和63年12月)]

「桜棟命名由来」

新設された女子寮のネーミングを学内に公募したところ56通の応募があった。その中から女子棟にふさわしい名称として「桜」が選ばれた。既設の男子棟がすべて樹木にちなんだ名称であること、また、春に希望に燃えて入学してくる女子学生が、桜のように、晴れやかに、明るく、のびのびと育って満開の花を咲かせて欲しいという思いをこめて、「桜棟」と命名された。[第80号(平成5年6月)]

「神戸市に見舞金」

今回の高専祭には若い先生方が出された模擬店もありました。先生方の模擬店は、なかなかのにぎわいで、3万円以上の利益があったそうです。使い道についていろいろ検討されたすえ、大きな被害にあった神戸市に寄付されることになり、利益に多少追加して4万円にして、神戸市役所に届けられたそうです。[第88号(平成8年3月)]

お断り ここに転載した文章は全て編集者の責任でオリジナルを一部抜粋して再録したものです。

100号までの様式の変遷

創刊号(昭和44年8月)～第39号(昭和54年2月)	B5版 6段組み 縦書き 12～6P 年4回発行
第40号(昭和54年5月)～第57号(昭和60年3月)	B5版 6段組み 縦書き 16～12P 年3回発行
第58号(昭和60年6月)～第75号(平成3年3月)	B5版 5段組み 縦書き 16～12P 年3回発行
第76号(平成3年9月)～第79号(平成5年2月)	B5版 2列組み 横書き 32～26P 年2回発行
第80号(平成5年6月)～第99号(平成11年9月)	A4版 2列組み 横書き 16P 年3回発行

特集 100号までの有明高専 今・昔

仮校舎（昭和38年4月）



祝辞を述べる荒木文部大臣



開校時の教職員



第1回卒業証書授与式（昭和43年3月）



昭和41年頃の実習工場



昭和41年頃の工業化学科



第2期新営工事竣工（昭和39年10月）



ロボットコンテスト



太陽光発電設備



体育祭



高専祭



太陽電池モジュール



入学式

有明工業高等専門学校 創立30周年記念式典



創立30周年記念式典



寮での生活



卒業式



オリエンテーション

研究室訪問

今年度、博士号を取得された教官お二人の紹介です。

博士(理学) 共通専門 山下 巖



問. 研究テーマを教えてください。

私は、授業では一般数学や応用数学をやっておりますが、物理を勉強した関係で流体力学に関する研究、特に、層流というすーっと糸を引くような乱れのない流れと乱流という渦巻くような乱れた流れの遷移点を見つける研究をしています。流体力学では、それを「層流安定性の問題」と言い、伝統的に研究されております。「固体面に沿う噴流型境界流の安定性に関する研究」と言うテーマで、壁面に沿う強いJet流の安定特性は、壁面の存在と粘性のため不安定性を助長したり・抑制したりする複雑な特性があることを示し、今までの研究者が理論や実験解析で見落としていた新しい乱流発生の限界を数値計算的に算出し、自然現象(黒潮の周期的な蛇行現象)との比較と模擬の黒潮を作り室内実験を行い、理論的乱流発生限界値との一致を立証しました。

問. 研究で苦労されたことをお聞かせ下さい。

理論を検証するモデルを想定し、計算する場合は、結果はどうあれ、とにかく計算結果が導かれます(それが正しいかどうかは、自然現象が実験的裏づけが必要)。ところが実験では、温度・湿度を一定に保つ、同じ天候条件でとか、夏と冬の気温差、一定深さの傾斜のない水面を作り出すことなどのむずかしさ、さらには前述の条件変化により実験の再現性が保持出来ないなど実験に相当の時間がかかり、実験結果を評価・考察して、納得のいく結論が出ずに苦労したことです。

問. 学生諸君へ一言

流体力学は得意ではないけれど、長くやっていると、興味が出て、深みにはまって研究する対象として選んでしまい、何とか一つの成果を出せました。とにかく、目的をもち腰を据えて物事に対処する気構えを高専時代に培ってください。必ずや良い成果が出てくると思います。また、3月に卒業される5年生諸君は、3年間は一つのことにじっくり取り組んで見て下さい。「石の上にも3年」、何か見えるはずですよ。

最後に、私がこの成果を達成出来たのは、これまで一緒に研究してくれた卒研生や特にクラス担任として付き合った学生諸君のがんばりに触発された部分が大いいです。(聞き手 電気工学科 中川忠昭)

博士(工学) 一般教育科 酒井 健

問. 専門分野と学位論文について紹介してください。

私たちがふだん体験することのできない超高压・極低温・強磁場といった極限環境下において、遷移金属や希土類の合金・化合物などの磁気的性質や電子状態について研究しています。なぜ、超高压・極低温・強磁場といった環境がこれらの研究に必要なかというと、まず磁気的な相互作用が距離の関数であることから、原子間距離の違いによる磁性の変化を調べる必要があるのです。また、熱振動の影響を取り除いた極低温や強磁場中では電子状態の変化が顕著に現れてくるからです。学位論文のタイトルは「高压下におけるDyB₂単結晶の反強磁性秩序および構造相転移に関する研究」です。内容の詳細は省略しますが、一言でいうと、DyB₂という物質の極低温における弾性異常が磁気的性質にどのような影響を及ぼすかを、極限環境下での様々な実験を通して明らかにしたというものです。

問. 研究で苦労されたことをお聞かせ下さい。

皆さんご存知のように、圧力=力÷面積で表されます。数万~数十万気圧という超高压を発生するためには、大きな力を発生するためのプレス装置と狭い試料空間が必要です。実際に扱う試料サイズは小さいもので長さ1mm、幅0.5mm、厚さ0.2mm程になります。この試料に、太さ0.2mm程の線をつけたりしますので、ちょっと油断すると断線したり、試料が壊れたり様々なトラブルが起きます。実験には失敗がつきものですが、とにかく、実験データを出すまでの生みの苦しみというのを味わいました。しかし、一つの実験を終えたときの達成感は何とも言えないものがあります。

問. 学生へ一言どうぞ。

研究(特に実験系)では、頭脳だけでなく気力や体力なども非常に重要なfactorになります。また、日常の勉強や部活などと同じで、地味だけれどもコツコツと積み重ねていくことが大切です。高専での勉強や部活においても、1つの目標を達成するまで、粘り強く、最後までやり遂げることができるようがんばりましょう!(聞き手 物質工学科 吉武紀道)



人物・いま

今回は永年勤続表彰を受けられました蓑田登世子先生にお話を伺いました。

電子情報工学科 蓑田 登世子

教育については、学生の皆さんには、基礎的知識を良く理解して自分のものとする、また物事を順序立てて考えていくこと、いわゆる論理的な思考能力を学んでほしいと思っています。そのような能力が身につくような授業をしたいと思っているのですが、なかなか……。

問:最後に本校の学生に対して一言お願いします。

昔のように、一度就職したら一生その会社で働けるという時代ではなくなりました。私から見ると学生の皆さんには、厳しい状況のように思います。でもこれからは皆さんが主体となって今後の社会を築き上げて行くことになるのですが、皆さんにはそんなに厳しい状況には思えないかも知れません。しかし、自分の道を切り開き、社会を発展させて行くためには、本校で、人類が長年かけて築き上げてきた文化である基礎知識をしっかり身につけ、考える力、論理的な思考力を十分修得して社会に出ていくことが必要ではないかと思っています。

(聞き手 機械工学科 吉田正道)



永年勤続表彰式にて(前列中央・蓑田先生)

問:研究(渦音の研究)の魅力や楽しさについてご紹介下さい。

実験の楽しさは、こうなるはずだと考えたことが実際の結果に現れ、さらにその中に予期せぬものがある場合最高ですね。この前ラジオで数学者が、「美しい理論は正しい。どんなに長い年月が立とうと正しくて修正などなされない。」というような意味のことを言われていましたが、渦運動を可視化していつも思うのは、自然現象は本当に美しいことです。例えば、同等の渦輪を正面衝突させると、渦輪の変化の様子は非常に複雑で、個々の乱れは乱流状態のだけれども、全体としては完全な対称性を持って変化するのです。その姿は芸術作品みたいに美しい。地球や地球上のいろんな現象は、地球誕生時の高エネルギー状態からここまで長い年月をかけて無駄なものを落として、低エネルギー状態へと変化してきた、対称性はその結果なのか?そういえば人間もほぼ左右対称に出来ているし、等と無責任に考えたりすることも楽しいですね。もっともこの頃は、なんかかやかと雑用が多くて、このようなことを考える余裕がなくなりました。

問:教育・研究というお仕事の中でモットーとされていることを教えてください。

研究に関しては、今まで行なってきた実験が、基礎的研究の実験であり、音の測定や光を使用した実験であるため、非常に正確に丁寧にねばり強く行なわなければうまくいきません。しかし、きちんと行なえば結果は正直に答えを出してくれますし、また新しい発見や次のテーマも与えてくれました。それで正確に丁寧にねばり強くをモットーとしています。

吹奏楽部訪問演奏

～みんなといっしょに吹奏楽～

2A 西山 敏史

有明高専吹奏楽部は毎年1回開催する定期演奏会だけでなく、地域の人々と音楽という言葉で交流を深めることを1つの大きな活動方針としており、聴いていただける人が一人でもいれば、そこへ出かけていくという訪問演奏活動を年間を通じて行っている。決して上手な演奏とは言えないけれど、本年度も植木町の音楽交流会に始まり、大牟田養護学校での演奏までいくつもの場所を訪れ、多くの人々と出会った。そして、音楽を介してたくさんの人々の気持ちに触れることができた。三池小学校では「団子三兄弟」が児童に大うけ大ヒットであったし、大牟田市教育委員会主催の音楽交流会では子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人々に聴いてもらうことができた。リフレ大牟田での地域夏祭りや、歴木保育園へ行ったときは、お母さん方の手作りの料理をごちそうになったりもした。大牟田養護学校高等部を訪れたときはわずか17人の生徒の前で演奏した。でも、皆、目を輝かせ懸命に聴いてくれる。私たちも自然と演奏に気合が入る。生徒達が体を揺する。歌い出す人もいる。体育館の中が心地よい暖かい空気が満たされるよう



大牟田市立笹原小学校での訪問演奏(同小体育館にて)平成11年10月

な気がした。

演奏の後、生徒達といっしょに肩をくんだり手をつないだりしながら、ボールを使ったゲームをして楽しい一時を過ごした。有明高専から最も近い小学校である笹原小学校に訪問したときは、全校児童が大声でいっしょに歌ったり、私たちのパフォーマンスに大笑いし、本当に演奏を喜んでくれていた姿をみて、自分たちのやってきた活動が有意義であったことを実感した。2カ月後、笹原小の子供達からの感想文が届いた。たどたどしい字だけれど、「来てくれてありがとう」とたくさんの子が書いてくれた。

今年度は演奏依頼が増えたが、すべての依頼にお応えすることができて良かった。これからも地域に貢献できる部活として、訪問演奏を続けていき、さらに多くの場所でたくさんの人々に出会い、有明高専の吹奏楽を聴いて楽しんでいただくために、今以上の練習に励みたい。

学生相談室

七福神の部屋

室長 川上 龍男

学生相談室が新設されて早いもので1年になります。1年前の4月、始業式で「微笑み大使」という恥ずかしい仇名を表に出して親しまれる学生相談室をアピールしたものの果たして学生諸君が来てくれるだろうか心配しながらのスタートでしたが、蓋を開けてみるとその日の午後、5年生の女子学生2人が進路相談に来てくれたのを皮切りに毎日数名の来談者があって、いくらでも相談室の役割を果たしているかなと思っています。学生相談室は私達スタッフ6名だけで育つものではなく本校の学生諸君と教職員と保護者全員で育てていくものと考えています。したがって、これまでも7月に発行された広報紙「微笑み」や12月に行われた「お国自慢“ベトナム料理”」講習会でも多数の学生諸君の協力を得て実現できたものでした。今年3月に新しい相談室ができて保健室と離れて一般教育棟3階に移ります。これまでは、保健室と相談室が隣同士にあって何かと便利な面もあったのですが、相談室が1部屋で狭く来談者が同時に重なったり、複数の来談者に対応できないこともありました。また、相談内容も重たいものから軽いものまで様々ですので、今度は別に2部屋とっていただきました。したがって、今度は健康管理面は保健室を中心に、治療的カウンセリングは今までの相談室と保健室が、教育的・開発的カウンセリングは新相談室が中心になって行なうことになると思います。しかし、この3者は常に連携し一つの円の中で活動することには変わりはありません。昨年12月に決まった学生相談室のニックネーム「七福神の部屋」の七福神が元気に活動しています。みなさんも一度訪ねてみませんか。

(学生相談室便り、創刊号表紙)



セクシュアル・ハラスメント 相談室の開設にあたって...

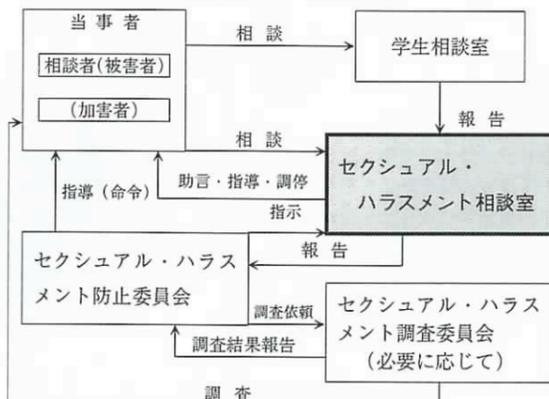
室長 川上 龍男

みなさんが楽しく・明るく・意欲をもって勉強できる、仕事ができるそのような学校作りを目指して、平成11年4月に開設された「学生相談室」に続いて、同年11月から「セクシュアル・ハラスメント相談室」が開設されすでに機能しています。現在は、私と井上庶務課長の2人でその任にあたっていますが、平成12年4月からは相談員として新たに女性2人・男性2人を加えて6人体制で、より敏速に、より適切な対応ができるようになります。

さて、皆さんよく御存じの「セクハラ」という言葉ですが、この用語の定義は「職員、学生等及び関係者が、他の職員、学生等及び関係者を不快にさせる性的な言動」となっています。そして、これに起因する問題として「仕事上または修学上の環境が害されたり、不利益を受けることが考えられる」となっていますが、それにもまして精神的な苦痛は計り知れないものがあると思います。このようなとき、1人で悩んだり、1人で解決しようとしなくて、気軽に相談に来てほしいのです。勿論、相談内容についての秘密は固く守られます。相談は、面談、電話、手紙、Eメールのいずれの方法でもできますが、面談の日時や場所については、相談者と相談員で連絡を取り合って、できるだけ相談者の希望にそくたちで行ないます。尚、面談の場合には、相談員は必ず男女2人で対応します。このように、相談室では、相談される皆さんが心から安心して相談できるように常に配慮しながら、一緒に考え、時には防止委員会の指導・助言をいただきながら、より適切な解決に努めていきます。相談者が、所属、氏名、相談の内容等を秘密に取り扱うよう希望したときは、その秘密を厳守します。また、防止委員会に相談内容を伝えるときも、必ず相談者の了解をとりますので安心です。

セクハラについての悩みは、早い段階で解消することが大切です。どのようなことでも気軽に相談ください。

(相談室 組織図)



NHKアイデア対決ロボットコンテスト99'

ぼくらの轍

5M 岡田 光弘

高専といえば、「ロボコン」。そういうイメージで高専は見られがちだが、意外と知らない人は多い。そんな人達に少し説明すると、「ロボコン」とはHNK主催で行われ、ロボットのアイデアや技術を競う大会のことで、5月下旬にアイデア選考会がある。いつもはボーッとしている僕達に活力がわく。さあ、出番だ!

今年のテーマは「Jump」!……えっ!? 飛び!? 「幅3000mm、高さ700mmの障害物を飛び越え、得点ゾーンへ箱を乗せる。」この難問を見た瞬間僕も飛び上がった。果たして僕達に、ロボットを飛ばせるのだろうか? しかし、飛行機などが、実際に飛んでいる以上やれない事はないはず…。

そう心に決めて、ロボット製作を開始。大会までの約半年間は、まさに失敗と苦悩の連続だった。大会一週間前ようやくロボットは完成したが、結果は一回戦敗退。しかしテスト走行で、どこよりもきれいな「Jump」を披露した事が認められ、技術賞を受賞した。

一昨年前の優勝と去年の一回戦敗退、この二つの出来事は僕達のかけがえのない宝モノだ。僕達はこれで最後だが、後輩達には今年がまたいいモノになれるようがんばって欲しい!



ロボコンに参加して

4M 尾道 健一

5月にロボコンのテーマをNHKからもらい、10月の地区大会までの約5ヶ月間でマシンを完成させなければならなかった。夏休みも毎日学校に来て製作をした。4年の夏休みには学外工場実習があり、メンバーが集まらない日が何度もあった。そのため夏休み中には図面を終了させることができなかった。大会の1ヶ月前にはマシンを完成させテストランをする予定であったが、休み後も夜遅くまでマシンの製作に取り組んだ。何度も図面を描き直したり、マシンを作り直したりして、完成したのが大会2日前であった。マシンのテストをする時間はなかったが、部分的には製作中にテストを繰り返し行っていたし、メンバーの技術も確かだから必ず動くという自信はあった。

大会前日、自分達のテストランの番でマシンを初めて通して操作したが、やっぱり不具合が生じた。マシンを発射する時にケーブルが絡んでしまった。その日の夜はマシンをホテルに持って帰り、何度も対策を練り、練習を重ねた。

大会当日、自分達の試合が来るまでマシンの調整や練習を行った。残念ながら試合は1回戦で負けてしまった。しかし、メンバーの団結が得られたし、次回のロボコンへの自信をメンバーが持ったことは必ず次に生きてくると思った。今年こそ全国大会へ行くことができるように頑張りたいと思っている。



プログラミングコンテスト

5I 田中 陽一

僕たちは平成11年10月9、10日に広島県呉市で開催された、第10回プログラミングコンテストに出場しました。

コンテストには4Iから競技部門に、コンピュータ研究部から課題部門に、そして僕たち5Iチームはコンテンツ部門に応募しました。課題部門では惜しくも佳作でしたが、競技部門とコンテンツ部門は本選に出場が決まり本選に向けて開発をがんばりました。

コンテスト当日は全国の高専から予選を通過したチームが集まり、会場は熱気に包まれていました。本選ではコンテンツ部門は1日目にプレゼンテーション審査、2日目には一般展示と同時にデモンストレーション審査が行われ、審査の結果、敢闘賞を受賞しました。

今回の競技部門は例年になくハイレベルな内容で、競い合うどころか課題を解くことすらできないチームも多く見られました。4Iチームも健闘しましたが、1回戦敗退に涙をの

みました。

今回プロコンに参加することで、他高専の人と競い合い知り合うことができて良い経験になりました。2000年のプロコンは三重県津市で開催されます。「自分のプログラミング能力を試したい」「三重県に行ってみよう」などなど、次回に参加したいと思っている人はいませんか? ぜひ挑戦してみてください!



CLUB CLUB 紹介 CLUB CLUB

今回は文科系クラブから天文部と茶道同好会を紹介します。

天文部

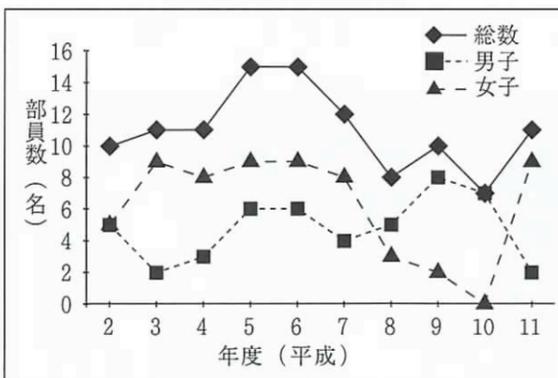


久しぶりの天文部紹介ですので、過去10年間の活動を振り返ってみたいと思います。まず、部員数をみると、グラフにみられるように、男子部員数が減りその分、女子の数が増えたことが大きな特徴といえます。女子学生の中に天文に興味を持つ人が増えたことは心強いことですが、贅沢を承知で言わせていただくなら、暗闇の中、道なき道を重量物を運ぶことが多いので男子部員の増加を期待しているところです。

次に活動に目を向けますと、残念ながらここ数年の間年々寂しくなってきました。平成4年頃までは、知識向上のため校外の講習会に参加する人もおり、部員相互間の啓蒙が盛んに行われました。その結果、近郊の小学校の要請による天体観望会を実施したり、また、高専祭には、ネガや印画紙の現像焼き付けを自分たちの手で行うなど、活況でした。今年度、校舎大改修のため器材が使えず活動らしきことはできていません。来年度は、せっかくの器材を生かすためにも、また以前の活況を取り戻すためにも、まず部員の知識のレベルアップを行いたいと思っています。

顧問 小澤 賢治

(部員数の推移)



茶道同好会

こんにちは、茶道同好会です。現在部員は男女あわせて10名で、狭い和室ながらも、みんなで明るく楽しく活動しています。創部以来、校外から講師として山下宗寿先生に来て頂き、あたたかく時には厳しく指導して頂いています。

茶道というと、正座や難しい作法等、少し堅苦しいイメージを持っていらっしゃるかもしれません。確かに、初め、新入部員は足が痛くて正座ができませんでしたが、けれども一年もすると慣れて長時間座れるようになりました。お作法を覚えるのも初めは大変ですが、先輩方のお点前を見たり、教えてもらったりしながら、少しずつ楽しみながら覚えていきます。高学年は次々と上のお点前に進んで、濃茶をしている部員もいるほどです。また、お茶では、お道具の取り扱いも大切な勉強です。心して丁寧に扱い、ひとつひとつ名前を覚えられます。お茶をとおして、日本文化のさまざまな知識を得ることができます。

同好会では、校外活動も盛んに行っています。毎年、4月の春休みの日曜日に花祭り茶会をし、子供達やお年寄りの方々にお茶を差し上げます。この催しを皆さん心待ちにいらっしやいます。また、夏休みには毎年市内の高校、大学と一緒に一般の方々を招いてお茶会をしています。これも大変好評を得ています。さらに今年は大牟田市の町おこし大茶会に参加して、社会奉仕活動もする予定です。

校内外の先生方や地域の方々から、茶道同好会の部員はおじぎがきれいだと言われます。知らず知らずのうちに身につけていっているのではないかと思います。

活動は、毎週火曜日、4時45分から6時頃までです。気軽に入部して下さい。見学も結構です。同好会一同、お茶とお菓子を用意して、皆さんのお越しをお待ちしています。

4 C 笠間 由里



ラグビー・フットボール大会

「全国大会へ出場する」それは、私が主将になった頃はまだ夢でしか無かったこと。それを現実とする為に必死になって練習するプレイヤー達。しかし、そのプレイヤー達を影から一所懸命に支える女性達の姿がある。…そう、マネージャー達の姿だ。どんなに頑張っても彼女達が表舞台に立つことは、あり得ない。しかし、その裏方達の頑張りなくしては、我々プレイヤーが表舞台に上がることもまたなかったのだ。

今年、私はキャプテンとして一つの方針を立てていた。それは「プレイヤーとマネージャーとを別視しない」ということである。それは、立場が違っていても、全国大会に出場したいという気持ちは同じであり、また、それぞれの役割を全員が果たさなければ出場することは無理だからだ。それゆえに、マネージャー達にもプレイヤー達同様、キツイ事をたくさん言ってきた。しかし、それでも最後まで頑張り続けてくれた。これまでにない程に、この一年間は、プレイヤーにもマネージャーにもツライものであった。

春、夏、冬と長期休みは全てラグビーに費やした。ゴールデンウィーク、お盆、クリスマス、正月、…そんなものは今年はない。唯々、練習に打ち込んだ日々。夏合宿では、マネージャーもプレイヤーと共に体育館に寝泊りしました。

全国大会前、極寒の空の下、冷たい水を飲み、かじかんだ手のひらを吐息で暖めながら、大きな声で「ファイト!」とプレイヤー達を励まし続けてくれた。全国大会では、プレイヤー達が寝た後も、夜遅くまでユニフォームを洗濯し、万全の状態ですべてに臨めるようにしてくれた。そして、最後の試合が終わり、プレイヤー達と一緒に泣いた。…

私にとっても、プレイヤー達にとっても、そしてマネージャー達にとっても、この一年間の出来事は、人生の通過点にしか過ぎないのかも知れない。しかし、この一年間で全員が大きく成長し、自分に自信をつけたことだろう。その自信をこれからの人生に生かしてほしい。私は忘れない。部員達と過ごした練習の日々を…。

5 M 落石 和親



吹奏楽部

1月15日の吹奏楽部第31回定期演奏会には、多数ご来場頂きありがとうございました。

今回のテーマは、「想像」と「創造」という2つの言葉の意味を込めて、ひらがなで「そうぞう」としました。去年第30回という節目の演奏会が終了し、新しいスタートラインに立った僕達は、今回の演奏会で今までと違う新しい僕達を見て頂けるよう、部員全員が協力し合ってがんばりました。その結果、今回の演奏会では部員全員が悔いの残らない演奏ができ、演奏会終了後は感動で胸がいっぱいでした。僕はこの定期演奏会の実行委員長を務めたことを誇りに思います。

実行委員長 3 M 西村 仁孝



平成11年度
第三種電気技術者試験合格者

【合格者】3名
5 E 北島健介、藤丸和博
目野宗利

【一部科目合格者】9名
2年間有効

5 E 遠藤泰史、田中義和
堤 晋也
4 E 古賀 剛、坂口天志
田嶋 貢、中田耕二
3 E 近藤洋平、白石剛之

平成11年度
第2回工事担任者試験合格者 (11月)

デジタル第3種

釜田 康次	3 E
森 正宣	3 E
永野 裕己	3 E
新庄 信博	3 E
北崎 尊之	4 E
古賀 剛	4 E
前田 昌孝	4 E
高木 昭徳	4 E
堤 晋也	5 E
藤丸 和博	5 E
中山 敬士	5 E

アナログ第1種

遠藤 泰史	5 E
-------	-----

冬季球技大会

12月1日、冬季球技大会が行われました。昨年、その前と冬季では雨の競技がつづき、今年も心配されましたが、今年は晴天にめぐまれ、サッカー・ハンドボール・バスケット・卓球の各競技が行われました。特に、3年ぶりとなるサッカーはたいへん盛り上がり、熱戦が繰り広げられました。他競技でも、例年になく3年生以下のチームが上位に食い込んできて、バスケ・ハンドでは、3 I、3 Mが決勝まで残るなど下級生の活躍が光った大会となりました。優勝争いは5 M、5 Aの争いとなりましたが、どちらも譲らず、同時優勝という結果になりました。春季ではさらなる盛り上がりを期待したいと思います。

3 A 江島 大輔



在熊留学生の日本語弁論大会

(平成12年2月5日 熊本県立劇場)

最優秀賞 3 I ラハト・カビル君 (バングラデシュ)
グッドスピーカー賞 3 A シャルミン・タギザデさん (イラン)



学寮だより

寮長あいさつ

「我が岱明寮」

4M 榎木 英司

昨年、岱明寮の寮長となりました4年機械工学科の榎木です。今、岱明寮には男136名、女46名の計182名が共に生活しています。岱明寮の行事内容としては、4月に新入生歓迎行事、春季寮生球技大会、11月には岱明寮寮祭、1月には冬季寮生球技大会、2月には卒業寮生送別行事などがあり、他にも長期休暇前の大掃除、消火避難訓練、指導者研修などがあります。行事がある度に多忙な日々ですが、寮生が勝って笑い負けて悔しがる球技大会、劇やゲームなどを共に笑いあう寮祭などが、成功するように頑張っています。寮長になって思ったことは、「家族」とは面白い言葉で、「親族」や「血族」ほど厳密に血のつながりを表わさず、一緒に暮らしていれば、場合によっては「家族」と呼ぶことができる。だから寮生は、一つの屋根の下で暮らしている「家族」のようなものだと思います。

平成12年度 寮生会役員

寮長	4M	榎木 英司	副局長	3A	古賀 美啓
副寮長	3M	梶原 理宏	風紀局	3M	花田 慎伍
副寮長	4C	古賀あかね (桜棟棟長兼任)	整備局	2I	長淵 徹
総務書記	4M	久保山正朗	体育生	2I	西川 真
渉外	4M	藤嶋 直之	厚生	2A	北野 雄大
局名			報道	3M	今任 渉
会計	4E	木村 彰宏	娯楽	2M	山浦 大輔
風紀	4C	田中 正輝	写真	2A	染岡 雅明
整備	4E	久岡 真弘	照明	1A	舩岡 杜樹
体育	4C	江川 誠			
厚生	4M	金井 武史			
報道	4M	狩野 佑介			
娯楽	4A	田中友一朗			
写真	3M	豊増 和哉			
照明	4E	古賀 彰欣			

寒空について消火・避難訓練

12月16日夕方、荒尾消防署のご指導のもと、消火避難訓練を行いました。青葉棟1階から出火したという想定で避難移動後、消火器を使って消火訓練を行いました。



OB・OGセミナー

講師 大和 洋 (平成11年卒)
内村 香 (平成10年卒)

◆大和さんの話しを聞いて 5M 篁 優一

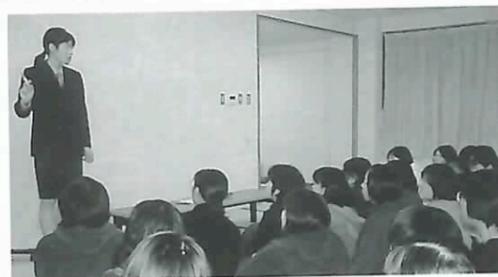
平成11年11月4日に98年度寮長である大和 洋さんが岱明寮に帰ってこられました。約1時間のセミナーでしたが、高専時代と就職してからの生活とを比較しながら、分かりやすく、おもしろく話していただきました。特に5年生にとってはもうすぐ就職ということで、大和さんの話を身近に感じ、興味深く聞いていました。下級生も、卒業された先輩の寮生活はどうであったか真剣に聞いていました。大和さんのお話の中で、今は自由がきかないきびしい寮生活かもしれないけど、社会に出て寮に入ってよかったと思うことはたくさんあるとおっしゃられ、寮生活は貴重な時間だとつくづく思いました。



熱弁を振るう元寮長の大和先輩

◆OGセミナーに参加して 5C 中尾 友子

4年生のときに実習でお世話になって以来、約1年ぶりにお会いした内村さん。就職されて1年半。すっかり関西人OLとなった彼女の社会人の視点からの話は、学生時代の彼女を知る上級生はもちろん、彼女のことを知らない1、2年生の心にもしっかり届いたようです。企業に入り問われる自己責任や自己管理の能力は、とても重いかわりに個人の自由を保証してくれるものです。身勝手な行動もある程度許される学生生活の中ではあまり考えることのない色々の責任の重要さが、彼女の話でかなり身近に感じられるようになったと思います。



内村先輩の話しに聞き入る桜棟の寮生たち

学生会活動

学生会長あいさつ

4C 井口美智子

学生会長になりました4C井口です。新役員は人数も新人も増え皆やる気のあるメンバーが揃っています。今まで、学生会役員が存在を学生の皆さんには明確に分かってもらえていなかったと思います。よって今年はクリアな学生会を目指し、いい意味で“こんな学生会役員は初めて!”と思ってもらえるようになるのが目標です。一応、今年は他高専との交流を深めたり、合同企画やイベントをやることを考えているので、どんどん参加して下さい。又、元団長に言われた“団長は花形、学生会役員は裏方”をモットーにし、自分らの与えられた役割を完璧にこなしていこうとも思います。これから一年間よろしくお祈りします。



平成12年学生会役員

(H11.11~H12.10)

会長	井口美智子 (4C)
副会長	江川 誠 (4C)
書記	鬼丸 恵介 (3A)
	山田 佳代 (4C)
渉外	武末 彰 (3I)
	梶原 理宏 (3M)
会計	諏訪園未帆 (2A)
	古賀あかね (4C)
体育局	坂本有佳子 (3C)
	田川 裕佳 (3A)
	江島 大輔 (3A)
	今村 英樹 (2E)
	大古場一樹 (1A)
文化局	山崎 博之 (4I)
	原田由加理 (4C)
	甲斐 隆嗣 (3M)
	平 有加利 (1C)

整備局	黒岩 雄喜 (4M)
	笠原 孝高 (4M)
	森下 真奈 (3M)
風紀局	梅原 幸 (3C)
	中野 佑紀 (4E)
	狩野 佑介 (4M)
報道局	坂本 政徳 (3E)
	山田 佳代 (4C)
	河野 恵郷 (4M)
	浦崎 文香 (3M)
	武末 彰 (3I)
放送局	今村 晶子 (3A)
	山下 ゆり (1C)
	川内美奈子 (4C)
	黒田 英里 (1C)

体育系クラブリーダー研修会

2月4日(金)、本校で標記研修会が開かれた。各クラブの指導的立場にある学生32名が出席、21名の顧問教員も参加された。テニス競技の指導者として活躍され、日本テニス協会公認審判員など数多くの資格を取得されている本校テニス部技術コーチの古賀史朗先生を講師に迎え、「メンタルトレーニングの技法」について研修を行なった。集中力を高めるトレーニング法や不安などによる「びびり」の克服法などいろいろなトレーニング法について学んだ。講演の後、井上先生の指導により「スポーツ傷害の予防」についての研修も行なった。



メンタルトレーニングの技法
講師 古賀史朗先生

建築設計競技

建築設計競技で今年も多数入賞

(社)福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技で今年も多数の入選を果たしました。課題は、高校生の部が「シニアセンター 世代を越えたボランティア交流」、専門学校生の部が「幼年学校 少子化時代における児童教育の場」で、少子高齢化社会で重要となりうるテーマでした。高校生の部では県内から92点の応募があり、3A神谷晋太郎君と江島大輔君が佳作、近藤薫さん・奥園加奈子さん・前田尚子さん・吉見牧子さんが協会賞を獲得しました。

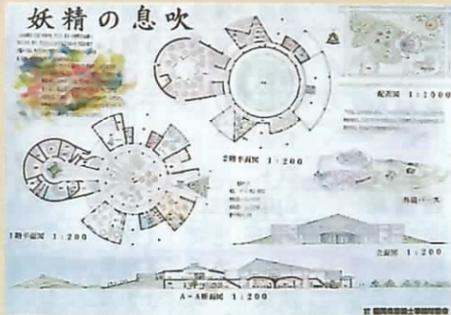
多数の入選により昨年同様「学校努力賞」を獲得することができました。尚、団体賞は3年連続の受賞となります。専門学校の部には191点もの応募があり、5A坂上美穂さんが銀賞、4A吉富寛子さんと安田佳代さんが銅賞、5A安陪春香さんと藤田智子さんが協会賞を獲得しました。以上の5名は昨年に次ぐ2年連続の入選を果たし、藤田さんは3年連続となりました。



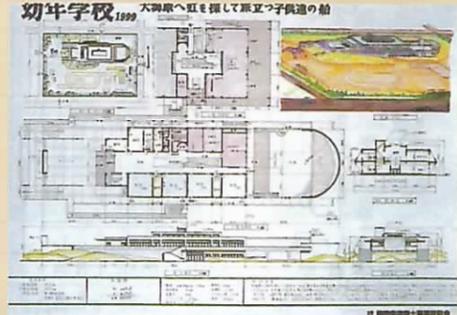
▲表彰式（受賞した学生諸君）



▲銀賞 5A 坂上美穂さんの作品



▲銅賞 4A 安田佳代さんの作品



▲銅賞 4A 吉富寛子さんの作品



▲佳作 3A 神谷晋太郎君の作品



▲佳作 3A 江島大輔君の作品

編集後記

昭和44年に創刊号が発行されて以来、今回で100回となったのを記念して、記念特集を企画した。表紙には文部省主催の学校広報紙コンクールで7年間連続して受賞した号の表紙を飾った。本校では創刊後かなりの期間、この「高専だより」が唯一の広報紙であり、様々な記事が盛り込まれていたが、現在では、校報、図書館報、同窓会会報などが独立し、それぞれ充実を図っている。「高専だより」も学生、保護者向けの広報紙として、ますますの充実を図ってきたい。

有明高専だより 第100号

平成12年3月1日発行

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585

大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861(学生課)